

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月21日

青森県知事

殿

提出者

住 所 青森県三沢市岡三沢1丁目1番地84号

氏 名 有限会社 東北ファーム

代表取締役 山本 彌一

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0176-59-2266

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	有限会社 東北ファーム
事業場の所在地	青森県三沢市大字三沢字庭構 54-45
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	農業（養鶏業）
② 事業の規模	約117万羽
③ 従業員数	148人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	生鶏糞⇒攪拌発酵⇒水分調整利用⇒堆積発酵⇒堆肥化 斃死鶏⇒冷蔵保管⇒運搬・処理を委託 廃プラ、ガラ陶、木くず等⇒分別保管⇒処理を委託

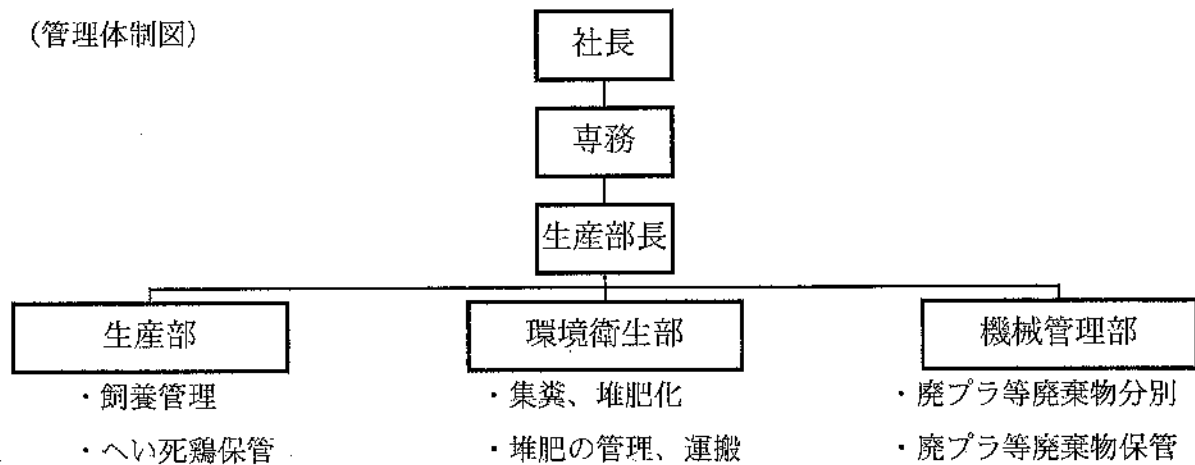
（日本産業規格A列4番）



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	家畜の死体	廃プラ	ガラ陶	繊維くず	混合	
	排出量	12296	18.325	1.88	0.07	0.16	0.08	
	（これまでに実施した取組） 無駄をなくし、計画的に排出 鶏糞低減飼料を使用して鶏糞の発生量抑制							
② 計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	家畜の死体	廃プラ	ガラ陶	繊維くず	混合	
	排出量	40000	200	7	-	-	-	
	（今後実施する予定の取組） 無駄をなくし、計画的に排出 鶏糞低減飼料を使用して鶏糞の発生量を抑制							

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラスチック類、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、金属くず、木くずの分別
② 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラスチック類、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、金属くず、木くずの分別

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	12,296 t	t
	(これまでに実施した取組) 発酵して堆肥化⇒自社畑および耕種農家へ運搬		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	40,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) 発酵して堆肥化⇒自社畑および耕種農家へ運搬		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第 4 面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和５年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	家畜の死体	廃プラ	ガラ陶	繊維くず	混合	
	全 処 理 委 託 量	18.325	1.88	0.07	0.16	0.08	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	-	-	-	-	-	-
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	-	-	-	-	-	-
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	-	-	-	-	-	-
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	-	-	-	-	-	-
	（これまでに実施した取組）						
	廃プラスチック類、ガラス・陶磁器くず、木くず、蛍光灯等を分別保管→処理を委託 家畜の死体を冷蔵保管→運搬・処理を委託						

(第5面)

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	家畜の死体	廃プラ	ガラ陶	蛍光灯	混合	
	全処理委託量	200	7	-	-	-	
	優良認定処理業者への 処理委託量	-	-	-	-	-	
	再生利用業者への 処理委託量	-	-	-	-	-	
	認定熱回収業者への 処理委託量	-	-	-	-	-	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	-	-	-	-	-	
	(今後実施する予定の取組) 廃プラスチック類、ガラス・陶磁器くず、木くず、蛍光灯等を分別保管→処理を委託 家畜の死体を冷蔵保管→運搬・処理を委託						
※事務処理欄							

(第 6 面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。